

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和2年7月2日(2020.7.2)

【公表番号】特表2019-523308(P2019-523308A)

【公表日】令和1年8月22日(2019.8.22)

【年通号数】公開・登録公報2019-034

【出願番号】特願2018-551232(P2018-551232)

【国際特許分類】

C 0 9 J	133/04	(2006.01)
B 0 5 D	7/24	(2006.01)
B 0 5 D	3/06	(2006.01)
B 0 5 D	7/00	(2006.01)
B 0 5 D	7/02	(2006.01)
B 0 5 D	7/14	(2006.01)
B 0 5 D	3/00	(2006.01)
C 0 9 J	137/00	(2006.01)
C 0 9 J	133/14	(2006.01)
C 0 9 J	7/38	(2018.01)

【F I】

C 0 9 J	133/04	
B 0 5 D	7/24	3 0 1 P
B 0 5 D	7/24	3 0 1 T
B 0 5 D	3/06	1 0 2 Z
B 0 5 D	7/24	3 0 2 P
B 0 5 D	7/00	G
B 0 5 D	7/00	E
B 0 5 D	7/02	
B 0 5 D	7/14	P
B 0 5 D	3/00	F
B 0 5 D	7/24	3 0 3 A
B 0 5 D	7/24	3 0 2 U
B 0 5 D	7/24	3 0 2 Z
B 0 5 D	7/24	3 0 2 Y
B 0 5 D	7/24	3 0 2 X
B 0 5 D	7/24	3 0 2 T
B 0 5 D	7/24	3 0 3 E
C 0 9 J	137/00	
C 0 9 J	133/14	
C 0 9 J	7/38	

【手続補正書】

【提出日】令和2年5月22日(2020.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

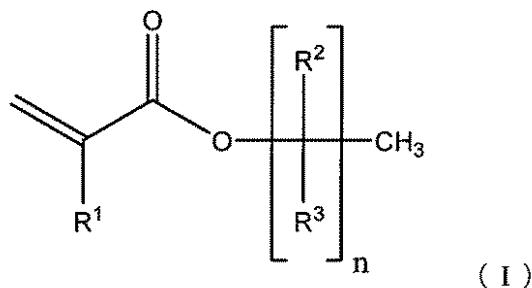
【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1のステップにおいて、

(i) 式(I)：

【化1】



[式中、

R¹は、H又はCH₃であり、

R²及びR³は、共にH又は共にCH₃であり、

nは、0～22の整数である]

で示される少なくとも1種のアクリルモノマー又はそれらの混合物、及び

(ii) 脂環式エポキシド、オキセタン、一置換オキシラン、又はそれらの混合物から選択されたペンダント反応性官能基を含む少なくとも1種のモノマーを含む混合物を反応させ、

第2のステップにおいて、

第1のステップにより得られた混合物を、

(iii) 少なくとも1種のカチオン性光開始剤、及び

(iv) 任意に他の添加物

と反応させることにより得られる、UV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項2】

(i) は、前記UV硬化型感圧アクリル接着剤の総重量に対して50～99.9重量%の量で存在する、請求項1に記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項3】

式(I)において、

R¹は、H又はCH₃であり、

R²及びR³は、共にH又は共にCH₃であり、かつ

nは、0～5の整数である、

請求項1又は2に記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

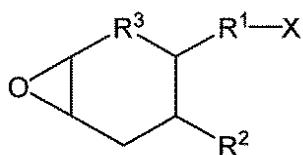
【請求項4】

モノマー(iii)は、前記UV硬化型感圧アクリル接着剤の総重量に対して0.0001～2重量%の量で存在する、請求項1～3のいずれかに記載のUV硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項5】

モノマー(iii)は、式：

【化2】



[式中、

R¹は、O、S、C=O、又は直鎖状、分枝状、若しくは環状アルキレン、又はオキシアルキレン、アリーレンであり、

R²は、直鎖状、分枝状、及び環状アルキル又はアルコキシ、アリール、H、ハロゲン

、 C = O、又は共有結合接続を介した縮合脂環式環である R¹ の一部であり、 R³ は、 (C H₂)_n で、 n = 0 ~ 3 であり、 X は、アクリレート又はメタクリレートであるか、又は -W-Y 基を含み、ここで W は、 O、S、アミド、炭酸塩、ウレタン、尿素、シロキサン、又はそれらの組み合わせであり、 Y は、 -R⁴-C(R⁵)=C H₂ であり、 R⁴ は、直鎖状又は分枝状 C₂ ~ 10 アルキレン、 C₂ ~ 10 オキシアルキレン、 C = O、又はアリーレン若しくはその誘導体であり、 R⁵ は、 H 又は C H₃ である] を有する脂環式エポキシドから選択される、

請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 6】

カチオン性光開始剤 (i i i) は、スルホニウム塩若しくはヨードニウム塩又はそれらの混合物から選択される、請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 7】

硬化した UV 硬化型感圧アクリル接着剤は 1 ~ 3 の相対粘度を有する、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 8】

UV 硬化型感圧アクリル接着剤は、さらに粘着付与剤を含む、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の UV 硬化型アクリル接着剤。

【請求項 9】

硬化した UV 硬化型感圧アクリル接着剤は、 -50 ~ 25 の Tg を有する、請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤。

【請求項 10】

硬化した請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧接着剤と、基材とを含む物品。

【請求項 11】

基材は、プラスチック、ガラス、不織布、又は金属により構成される、請求項 10 に記載の物品。

【請求項 12】

硬化した UV 硬化型感圧接着剤は、 10 μm ~ 500 μm の厚さを有する層である、請求項 10 又は 11 に記載の物品。

【請求項 13】

請求項 10 ~ 12 のいずれかに記載の物品の製造方法であって、 (i) 請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧アクリル接着剤を基材上に塗布するステップ、及び

(i i) 前記 UV 硬化型感圧アクリル接着剤を UV 硬化させるステップを含む方法。

【請求項 14】

UV 硬化量は、 0.2 ~ 20 mJ / μm である、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

硬化した請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の UV 硬化型感圧接着剤の、固定、接着、シーリング、ラベリング又は薬剤送達手段としての使用。